

## 本校の教育方針

### I 教育方針

#### 1 教育目標

『心豊かで 創造性に富み 心身ともにたくましい児童の育成』

(めざす児童像) ●進んで学ぶ子  
●ともに伸びる子  
●やりぬく子

(めざす教育) ○児童に寄り添った教育  
○児童の未来を見据えた教育  
○児童が自ら考え、実践する教育  
○安全・安心を意識した教育  
○家庭や地域と連携した教育

〈本年度の重点〉「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」

#### 2 学校教育目標達成に向け、大切にしたいこと

##### (1) 授業改善の推進 ～学習が好きな子ども～

###### ① 子ども主体の学び

新学習指導要領の趣旨の実現に向け、主体的で対話的な学習を工夫しているところであるが、本校児童は「自ら課題解決し学びを深めている」という意識が低い。自ら考え、課題解決的に学ぶ授業に向け、課題把握や振り返りに焦点を当てた授業改善を進める。

- ・単元を貫く内発的な動機付けや、思考と一体となった表現の重視
- ・子どもにとって学ぶ価値が実感できる課題の設定
- ・解決の見通しや方向性を子どもに問い思考を活性化
- ・学習者の自律性を促す自己決定場面や自己選択場面の拡充
- ・自己充実的な達成動機につなぐメタ認知を促す振り返り

###### ② 個を生かす協働的な学び

本校児童は他者とのかかわりを好む。またこれまで、自分の考えをしっかりとつ参加型の学び合いを積み重ねてきた。課題解決的な学習では、個々の豊かな発想や、多様な考えが表出する。今後さらに、そのような知的資源としての子どもの教材性を生かし、考えを練り合わせたり、統合したりする対話的な学びをめざす。

- ・多様な発想や創造的な考えが表出する発問
- ・内的な思考を可視化し、どの子どもも参加できる互恵的な学び合い
- ・個の課題解決（自力解決）にリンクした協働的な学習活動
- ・子どもにとっての目的や相手意識を大切にしたい学びの文脈づくり

###### ③ 個に応じたきめ細かな指導

本校の課題の一つに、様々な要因から遅れて進む児童への学習保障があげられる。子ども一人ひとりの学習状況から個々の教育的ニーズを理解し、内容が効果的に身に付く多様な手立てを用意していく。そのような個別最適な学びを通して、「誰一人取り残さず一人ひとりが輝く教育」の実現をめざす。

- ・既習事項を引き出し、新出事項とつなぐツール
- ・操作化や可視化など、思考を促す教材教具
- ・失敗やつまずきに対する柔軟的で受容的な態度の育成

さぬきの教員「授業づくりの三訓」

一、しかけて待つ 二、語らせつないで 三、認め励ます

## (2) 学級経営・生徒指導の充実 ～学校が好きな子ども～

### ① 子ども主体の活動

本校児童は素直な半面、課題の一つとして、やや指示を待ち、受け身の姿勢であることがあげられる。「私は～したい」という、子どもの思いや願いを起点にした、子ども主体の活動の拡充を図る。そのためにも、子ども自身のなりたい自分像や、つくりたい学級、めざす学校についての思いを大切に育む。活動においては、学級に閉ざすことなく、全校や地域、社会とのかかわりも視野に、発達段階に応じて体験的な活動を柔軟に検討していく。

### ② 共感的理解

子どもの「できるようにになりたい」「よりよい自分でありたい」というありのままの声に耳を傾け、子どもに寄り添う共感的な姿勢で最後まで聴くように努める。そして、指示ではなく、子ども自身が考え、自ら動く積極的な生徒指導により、子どもの自己実現につなげる。課題を抱える児童に対しても、より多くの教職員が積極的にかかわり、組織的で一貫した指導・支援を行う。

### ③ 自己有用感の高揚

本校児童の大きな課題は、自己有用感の高揚である。あらためて本校が大切にしてきた「子ども中心」の考え方に立ち返り、子ども発で子どもが主役の、子どもが活躍できる機会のより一層の充実を図る。そして、教職員から肯定的なフィードバックを送るだけでなく、友だちや地域の方などから称賛を受ける機会を増やし、子どもがより深い達成感や充実感が味わえるようにする。コロナ禍で人間関係が希薄になりがちではあるが、他者から認められ、称賛されるコミュニティーの維持に努める。

さぬきの教員「かかわりの三訓」

一、共感的に受け止め 二、チームの力で 三、毅然と粘り強く

## (3) チーム木太の連携 ～高松が好きな子ども～

### ① 子どもに向き合う環境づくり

コンプライアンスを意識した教育公務員としての自覚を基盤とし、学校・教職員が、保護者や地域社会から寄せられる期待や信頼に応えることができるよう協働体制を取り、チーム木太として対応する。また、子どもと向き合う時間を確保し、教育活動を充実するために、タイムマネジメントの意識を高くもち、働き方改革をさらに進める。

### ② ふるさと教育の推進

ふるさとの「ひと・もの・こと」に関する教材的価値を再認識し、それらを生かしたふるさと教育を推進する。特に、生活科や総合的な学習、道徳科などにおける、子ども主体の問題解決的な学習の充実を図る。そして、子どもが自ら考え、自ら学ぶ探究の場を担保し、資質・能力の育成をめざす。「高松で育ち、高松で学び、高松で暮らしてよかったと思える教育」の実現につないでいく。

### ③ 家庭・地域との連携

本校の保護者や地域は学校に協力的であり、学校と一体となって子どもを育み、見守っているという意識をもっている。私たち学校も、互いに支え合いながら一丸となって子どもを指導していることを、保護者だけでなく地域にも伝えることで、安心感や信頼感を高めることができることを意識しておく。家庭・地域との連携の力を、ふるさと教育や読書活動、体験活動、安全対策、防災教育など、幅広い教育活動に積極的に取り込み生かしていく。